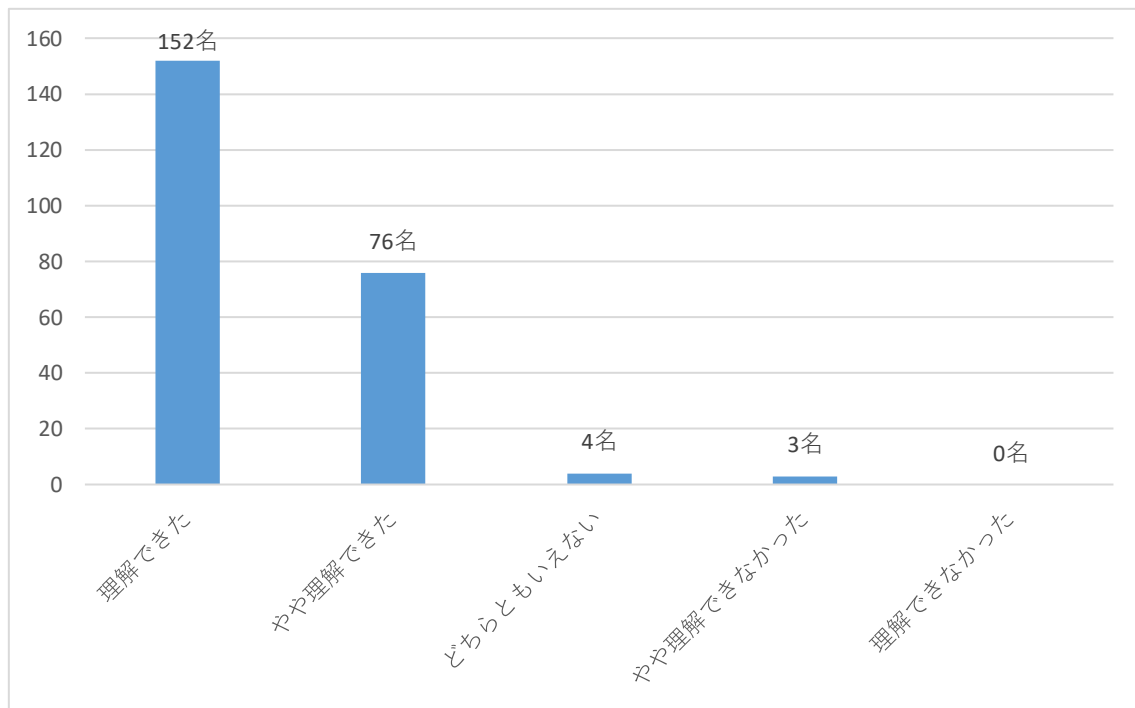


2025 年度 愛臨技生物化学分析検査研究班 12 月講演会レポート

アンケート集計結果

作成日：2026 年 1 月 20 日

アンケート)『ピットフォール』の講義に対する理解度



今回の講演会是他県からの参加も多く、343 名の方に配信させていただきました。レポートを拝見したところ、主に生化学・免疫血清を担当されている方が多く視聴されている印象でした。

レポート提出 235 名のうち 9 割以上の方に「理解できた」、または「やや理解できた」とご回答いただきました。

レポート提出 235 名のうち 9 割以上の方に「理解できた」、または「やや理解できた」とご回答いただきました。

ご意見・ご感想など（一例）

たくさんの貴重なご意見・ご感想ありがとうございました。

・普段遭遇することが多いデータ変動について、再確認することができた。また免疫分野については、測定原理やそれぞれの測定原理で起こるピットフォールがわかりやすかった。採血手技によるデータ変動についても勉強になった。

・来月から生化学担当になるため、この研修に参加しましたが、検査前工程から測定、報告まで全て役立ちます！今まで当たり前にやっていたことが、ダメとわかったりすぐにルーチンで実践できそうなものばかりで本当に良い勉強会に参加できて良かったです！まとめて検査室で展開したいと思います！

・検査の原理や現象を知る事で、問題発生時の対処する際に適切な対処が行えそうな気がしました。

・オンデマンドでゆっくり聴講させていただきました。普段考えることが少ない部分で、思い返すよい時間になりました。

・免疫分野のピットフォールで報告件数が多い項目やその原因を知れたことは、異常反応に気づく上で役に立つと感じました。また、実際に異常反応が生じた場合の対応手順を示していただけのがわかりやすく、普段のルーチン業務で異常反応に出会った際に漏れなく原因を探ることができるため、今後に活せると思いました。

・検査値で再検基準に引っかかったときのデータの見方を知れて良かったです。疾患や服薬などの電子カルテや、反応系もちゃんとみようと思いました。また日内変動による差も考えようと思いました。コスト面、TAT

の観点からも闇雲に再検するのはやめようと思いました。

本講演会のどのような点が特に役に立ちましたか（一例）

今回頂戴しましたご意見に対し、以下の通り一部ご回答させていただきます。

・生化学担当者のみでなく当直時にも知っていて欲しい内容ばかりでした。今回申し込みをしていない技

師にも声掛け皆で共有していきたい内容でした。

・後進の育成などに役立てたいと思った。あらためて、聞けて色々思い出しました。もっと沢山の事例を聞

きたくなった。"

☑受講いただきありがとうございました。

今回の講演は生化学を担当する上では基本的な内容になると思いますが、見落としがちなことや忘れて

しまっていたことなど1つ2つあったのではないのでしょうか。ベテランでもやってしまいそうな事はきっと若手の方

や他部署の方も不安に感じているはずです。

是非ともご施設で共有いただき、知見を広げていただければ主催者一同大変嬉しく思います。

・基礎的な重要な事項を、オンデマンド配信で繰り返し視聴できることが見落としなく、理解を深められ

良い企画である。継続してほしい。今後も基本的・日常役立つ多彩な情報を Web 配信（県外技師も

参加できる）してほしい。

☒ご感想ありがとうございます。

「Web 配信助かります」というお声を多数いただいております。繰り返し何度でも視聴でき、いつでもどこへでも繋がるが Web 配信の良さと私も感じています。今後も現地開催だけではなく、Web での開催も継続的に取り入れながら、開催して参りますので次回もご参加いただけると嬉しいです。

設問と回答

「臨床化学検査におけるピットフォール」についての設問です

設問 1) EDTA-2K が混入した際に偽低値になる検査項目を全て答えよ。

・ALP 正解

・K

・Ca 正解

・Mg 正解

設問 2) シフト現象の要因として当てはまるものを全て答えよ。

・精度管理試料の劣化・濃縮

・試薬開封後の使用期限切れによる劣化

・標準物質や試薬の切り替え 正解

・第一試薬と第二試薬の試薬継ぎ足しが逆 正解

「免疫検査のピットフォール」についての設問です

設問 3) 非特異反応によるピットフォールの原因として適切な物はどれか。選択肢から選べ。

・溶血 → 検体採取・前処理・検体性状

・RF 正解

・喫煙 → 生理的変動要因

・マイクロフィブリン → 検体採取・前処理・検体性状

設問 4) 干渉による異常データを疑った際に行うこととして、正しい方を選べ。

・干渉の原因追及が第一優先のため、すぐに確認試験を行う。

・検体の溶血や脂質異常などの分析前エラーや装置の状態を確認する。 正解

解説：分析前エラーや分析エラー、患者情報の確認を行い、再遠心後の再測定で再現性の確認がで

きた後に確認試験に進む。

<まとめ>

2025 年度 12 月講演会も Web 配信にて、県外会員様も生涯教育付与対象とし実施させていただきます

ました。事前申し込み 343 名に対して 235 名の方がレポート提出してくださいました。多くの方のご参加・ご視聴、大変嬉しく思います。

今回は『ピットフォール』をテーマに講演をさせていただきました。皆様のレポートの内容は全て目を通させていただくのですが、今回は中堅からベテランの世代の生化学・免疫担当の方に多く視聴いただいた印象がありました。基礎的な内容であるにも関わらず、何故こんなにも視聴された世代が広いのか、私の見解では“見落としの恐怖”を各々が日々意識しているからではないかと思うのです。

そもそもピットフォールとは落とし穴という意味ですが、今回の講演は言わば、落とし穴の見つけ方、落ちる前に対応する方法を知ろうという意図がありました。実務経験が長いほど落とし穴に遭遇する機会も増え、自分の知識の外にも落とし穴はないか怖くなってくる。

そういった“怖さ”を知っている方が多く集まっていたという事に、この講演会の意義を強く感じました。

上司や先輩から誘われて参加してみた後輩の皆様、どうか先輩の意図を汲み取ってください。そして後輩を誘った先輩の皆様、もっと多くの人にその知識を広げてください。

私たち研究班はそんな皆様の手助けになるよう、今後も研究会や講演会を主催して参ります。

明日の業務が、少しでも不安なく遂行できますよう心から願っております。

以上

作成・回答編集・問い合わせ：生物化学分析検査研究班

（一社）半田市医師会健康管理センター 臨床検査事業部 臨床化学課

竹内実菜美

TEL：0569-27-7882

E-mail：c3175_takeuchi@handa-med.jp